

# Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Port Authority Bus Terminal

## 《初めてのニューヨーク（前編）》

今回は初めてニューヨークを訪れた時の話。今号と次号で（前編）（後編）の2回に分けて書かせてもらいます。

以前にも少し触れたことがある21歳の時のこと。その夏、人生初の海外旅行でアメリカ周一人旅に出た。約40日間の旅で訪れた街は、順にシアトル～サンフランシスコ～ロサンゼルス～ラスベガス～ニューオーリンズ～メンフィス～ナッシュビル～ニューヨーク～シカゴ～ナイアガラ～シアトル～そして、最後にハワイ。8月16日のエルヴィス・プレスリーの命日にメンフィスを訪れることをメインに、グレイハウンド（バス）、レンタカー、国内線を利用しながら、各地に約3日間ずつ滞在して、ジャズやブルース、カントリー、ロックなど音楽に纏わる名所を訪れた。頼りにしたのは『地球の歩き方』。

ナッシュビルからグレイハウンドに数時間揺られてニューヨークを訪れたのは8月半ば過ぎだった。グレイハウンドの窓

越しから遠くに見えるマンハッタンのビル群の風景は感動的で、徐々にマンハッタンが近づいて来た時の興奮は今でも忘れていない。当時はまだあのツインタワーがそびえ立っていた頃だった…。

グレイハウンドがマンハッタンに到着した時の印象は、まるで映画で見たままのニューヨークという感じで、その得体の知れないパワーやエネルギーに一瞬で圧倒された。あいにく天気は曇りで、人と車がせわしなく行き交い、バスの中から目に飛び込んでくる風景からも本当にくさんの人種が暮らしていることを実感させられた。だが、その時は感動に浸る余裕など全くなかった。

今も変わらないと思うが、当時マンハッタン内でグレイハウンドが発着する場所は、42nd ストリートと8th アヴェニューの角に不気味に大きくそびえ立つバスディーポだった。あらかじめ『地球の歩き方』でチェックしていた情報では、このバスディーポには多くの旅行者やバックパッカーが集まることもあって、スリやひったくりといった犯罪者にとっても格好の場所で、辺りにはホームレスの姿も目立ち、ドラッグの売人もうろつくような犯罪多発地域と記されていた。

この時の旅は寝泊りする場所を事前に予約するなんて余裕もなく、所持金もぎりぎりだったため、『地球の歩き方』の情報を頼りに各地のダウンタウンに到着してから安いホテルやモーテルを歩いて探すという、今思うと少し無謀だったかもしれないが、そんな旅を楽しんでいた。だが、このニューヨークは数日前まで滞在していたアメリカ南部ののどかな雰囲気とは全く異なり、『地球の歩き方』の情報から漂う危険な匂いを感じながらグレイハウンドを降りた。

まず失敗したのは、ニューヨークに到着する前に訪れたニューオーリンズ～メンフィス～ナッシュビルで、エルヴィスのグッズの他、古いレコードやポスター、Tシャツ、マグカップ等々、日本では手に入らないようなものが次から次へと目に入り、値段もお手頃だったため、調子に乗っているうちに買い漁ってしまっていた。旅の初めは最低限の必需品だけを詰め込んだ大きなスポーツバックが1つだったのに、ニューヨークに到着した時は大きなスポーツバックがもう1つ増え、更に大き目のズタ袋も1つあった。バスディーポに降り立った時の出で立ちは、両肩にそれぞれ大きなスポーツバックを掛け、背中に大き目のズタ袋を引っ提げている細身の東洋人。恐らく、スリやひったくり等、犯罪者に狙ってくれと言わんばかりの恰好だったと思う。

だが、そんな姿はグレイハウンドに揺られている時からイメージ出来ており、『地球の歩き方』に危険な街だと記されていたロサンゼルスでも試みたように、バスディーポに到着後に全ての荷物をロッカーに入れて、安いホテルやモーテルを探すことに決めていた。危険な街では極限まで身軽にして、犯罪の匂いを感じたら、巻き込まれる前にかくダッシュで逃げようと思っていたが、銃で撃たれる危険もあるため、いざという時の為にポケットには常に10ドルか20ドルを忍ばせておき、最悪それで許しを請おうと思っていた。幸いマンハッタンのバスディーポでは直ぐにロッカーが見つかり、2つのロッカーに荷物を全て詰め込んだ。

『地球の歩き方』から引き裂いた地図を頼りに、まずは安いホテルを見つけることにしよう。そう心に決めてバスディーポを飛び出し、危険な匂い漂う42nd ストリートと8th アヴェニューの交差点を渡って、雑踏の中に飛び込んで行った。(～続く)